

氏名	大 野 繁
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲 第 1278 号
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科内科系脳代謝医学（発達神経科学小児神経学）専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）
学位論文題目	小児期の潜在性てんかんの脳波に関する研究
論文審査委員	教授 森 昭胤 教授 庄盛 敏廉 教授 黒田 重利

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

小児期の潜在性てんかん（LE）の特徴を明らかにし、その治療指針を得るために臨床的脳波学的研究を行った。ここでLEとは脳波に狭義のてんかん波をみとめ、しかもてんかん発作、熱性痙攣およびその他の痙攣を認めない症例とした。岡山大学小児神経科におけるLE 339症例を、器質性脳障害と痙攣素因の有無から4群に分類し、臨床てんかんを有する対象群149例と比較検討した。

- 1) LE 339例のうち、2カ月から19年11カ月の経過観察中に14例（4.1%）に臨床発作が出現し、うち13例は器質性脳障害群に属するものであった。
- 2) 臨床てんかんをきたし易い脳波所見は、slow spike-wave, multiple spike-wave, big sharp wave, cortico-subcortical discharges, multiple cortical discharges, focal slowを伴う焦点性発射、過呼吸で賦活される発射であった。
- 3) 臨床発作を発現しにくい脳波所見は、sharp wave, small sharp wave, Rolando棘波, parietal focusを有する焦点性棘波、年長児における光感受性発射であった。
- 4) 痙攣素因は臨床てんかん発症の危険要因とはみなされなかった。
- 5) これらの知見にもとづいてLMの抗てんかん剤治療の規準を提案した。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は小児期の潜在性てんかん患者について臨床的脳波学的研究を行ったものであるが、潜在性てんかんの脳波的特長を明確化しその治療指針を得るための重要な知見を得た

ものとして価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。